

2021年2月10日第1版

非喫煙アジア人女性の肺がんに関する全ゲノム関連研究

1. 研究の対象

2000年4月より2008年12月に当院で肺がんの治療を受けられた方かつ研究課題番号：G2000-003 研究「がんの易罹患性に関わるSNPs等遺伝子多型の同定とその臨床応用を目指す研究（研究代表者：吉田輝彦）」に対して、個別同意をして頂いた方

2. 研究目的・方法

肺がんはがん死因の一位であり、年間に本邦で7万人、全世界で137万人の死をもたらす難治がんです。肺がんの早期発見は難しく、また根治的手術を行ってもしばしば再発することから、新たな予防法の開発・罹患危険度の診断の方法が必要です。そのためには、喫煙等の環境要因に加えて、個々人の固定リスクとしての遺伝要因の理解が必要です。特にアジア女性非喫煙肺がんの死亡割合は、欧米人のそれと比べて有意に高いことから、女性非喫煙者に着目した検討が必要とされています。

本研究の目的は、アジア人女性の肺がん予防のための基盤的な情報として、肺がん罹患に関わる遺伝要因の情報を得ることです。方法としては、アジア諸国の機関で収集された6,000例の症例、8,000例超の対照群のゲノムDNAを用いて、ゲノム網羅的な関連解析を行い、アジア人女性の肺がん罹患リスクに関連する遺伝子座を同定することです。

研究期間は2010年10月05日～2026年03月31日（研究実施期間：16年間）としますが、研究の進捗状況によっては延長する場合があります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

予診カードに記載されている情報を元に、性別、罹患年齢、身体情報（身長、体重、BMIなど）、生活習慣（喫煙、飲酒歴、受動喫煙など）や既往歴・家族歴等に関する基本的情報と診療の進行に伴い患者さんからの診療情報（腫瘍マーカー等を含む検体検査結果、肺機能検査や身長・体重等を含む生理検査結果等、予後や治療応答性など）を本研究に用います。試料は、血液検体由来DNA検体を遺伝子解析に用います。

4. 外部への試料・情報の提供

海外の研究機関へのデータ及び試料の提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。具体的には、パスワードが付加された記録媒体もしくは試料を郵送もしくは直接行います。また研究に用いる試料は本研究用に割り振られた研究番号を使って管理します。対応表は、当センターのゲノム研究個人情報管理者が責任をもって保管・管理します。

5. 研究組織

国立がん研究センター 河野隆志、白石航也
米国がん研究所 (NCI) Qing Lan, M.D., Ph.D., M.P.H. (主任研究者)

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先及び研究責任者：

〒104-0045東京都中央区築地5-1-1

国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 河野隆志

TEL: 03-3542-2511/ FAX: 03-3542-2530

研究代表者：

国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 河野隆志